

2023年度 重点領域研究助成費 実績報告書

2024年3月14日

報告者	学科名	子ども学科	職名	准教授	氏名	小畑 千晴
研究課題	「雑草型」幼児教育人材の育成を見据えた地域・国際参加・協働型アクションリサーチ					
研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	小畑 千晴	子ども学科・准教授		臨床心理学	研究全体の統括
	分担者	安久津 太一 デスマレス エリック 伊東 秀之 川上 貴代 嘉数 彰彦 向山 徹 畠 和宏	子ども学科・教授 子ども学科・准教授 栄養学科・教授 栄養学科・教授 ビジュアルデザイン学科・教授 建築学科・教授 建築学科・准教授		音楽教育学 社会学 福祉学 食品化学 栄養学 映像デザイン 建築学	教育実践と評価 教育実践・文献調査 食品学の知識提供 栄養教育学の知識提供 写真集デザイン・製作 什器のデザイン製作 什器のデザイン製作
分担者との連携	<p>安久津：自然調査実施協力、自然と音楽との関連講義 デスマレス：アリゾナ大学訪問や共同研究に向けた検討・調整 川上：食育プログラム実施の検討と助言 向山：自然調査の実施と写真集制作 当初のメンバーではないが、ビジュアルデザイン学科高橋准教授に写真集制作のデザインに関して多大なご協力をいただいた。また、工芸工業デザイン学科南川教授にも自然環境と木工玩具に関する講義をご担当いただいた。</p>					
研究実績の概要	<p>学内自然環境を生かした雑草型幼児教育人材育成を実施する導入に、Edible Education (EE) の手法を取入れ、食を通じた生命や自然、文化との繋がりを体験的に学習することに加え、あらゆる学びの領域に働きかける教科横断型の学際的教育をスタートさせ2年が経過した。初年度と異なり、従来の野菜栽培に加えて食環境に関する先行研究調査と、Edible Education が公開している幼児向けプログラムを日本の幼児に実践し、その効果と課題を明確にする取組みを行った。</p> <p>また、学科外とのコラボレーションが可能になった点が2年目の大きな成果といえる。学内では栄養学科、工芸工業学科との協働し、分野横断的授業および演習を実施した。栄養学科教員の協力により、調理室を使用して自分たちの育てた野菜の収穫・調理とともに、栄養学的講義を行うことができたことは、学生たちの満足度を一層高めることに貢献できた。学外連携としては、食育に関心の高い岡山市内の私立保育園白鳩保育園が本取組みに参画し、幼児30人を引率し学生たちのプログラム実践を可能にした。</p> <p>更に、食育に関わる海外の取組みとして、幼児から大人までの食環境プログラムを実践し幼児・児童への先進的取組みを行っているアリゾナ大学付属の自然保護施設や小学校を訪問し、プログラム担当者から説明を伺い、継続的な関係構築へ向けて始動した点も成果といえる。2024年3月にも再度訪問し、共同研究に向けて話し合う予定になっている。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>当人材育成の2つ目の柱である学内自然環境については、専門家によるご指導の下、樹木・雑草・鳥類調査を実施した。2022年秋から開始された調査が1年経過し、各班ごとの報告を行い、学生たちのキャンパス内の自然環境への興味関心を促進することができた。そして、これまでの調査結果と学生たちのレポート、キャンパスの四季の移ろいをまとめた写真集「A Sense of Wonder～OPU Campus～」を刊行することもできた。</p> <p>これらの取組を通じて、90%以上の学生が「食に対する関心が深まった」、80%の学生が「自然についての学びをさらに深めたい」との回答しており、食やそれを取り巻く自然への興味関心を高めることに一定の効果があったと考えられる。</p> <p>本取組は、「雑草型幼児教育人材育成—キャンパスをフィールドにした自然資本の活用—」として、2022年エスプレック地球環境研究・技術基金より600千円(1年間)、「Edible Educationを活用した探求学習プログラム開発に向けた心理学的研究」が令和5年度科研、基盤研究Cとして2400千円(3年間)の採択につながっている。さらに、農林水産省第8回食育活動表彰審査員特別賞として受賞予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「Sense of Wonder～OPU campus～」(後日送付)